

予報期間 5月17日から5月23日まで

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 19日から21日にかけて、低気圧がアムール川中流からオホーツク海へ進み、20日に気圧の谷が北日本付近を通過する。
- 19日から22日にかけて、前線が東シナ海から本州の南岸付近に停滞するが、23日は前線が不明瞭となる。
- 23日は、日本海付近が気圧の尾根となる。

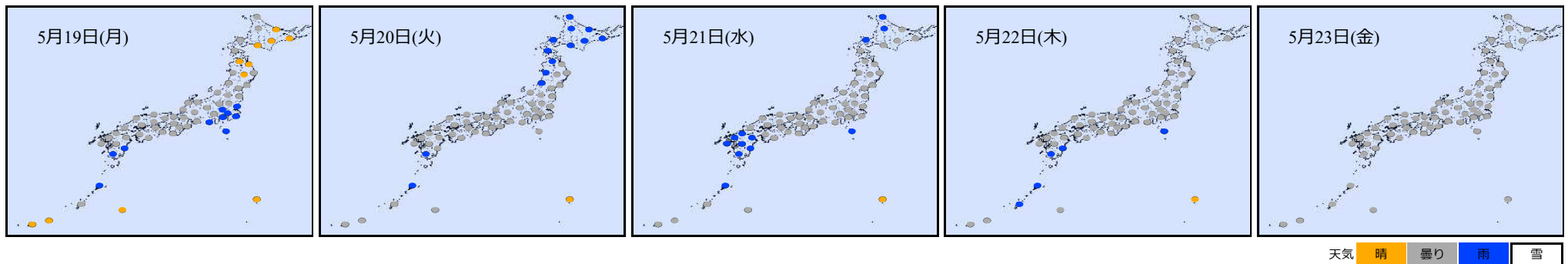
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 19日頃は、前線が本州の南岸付近に停滞する見込み。暖かく湿った空気の流れ込みの程度によっては、西日本では警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

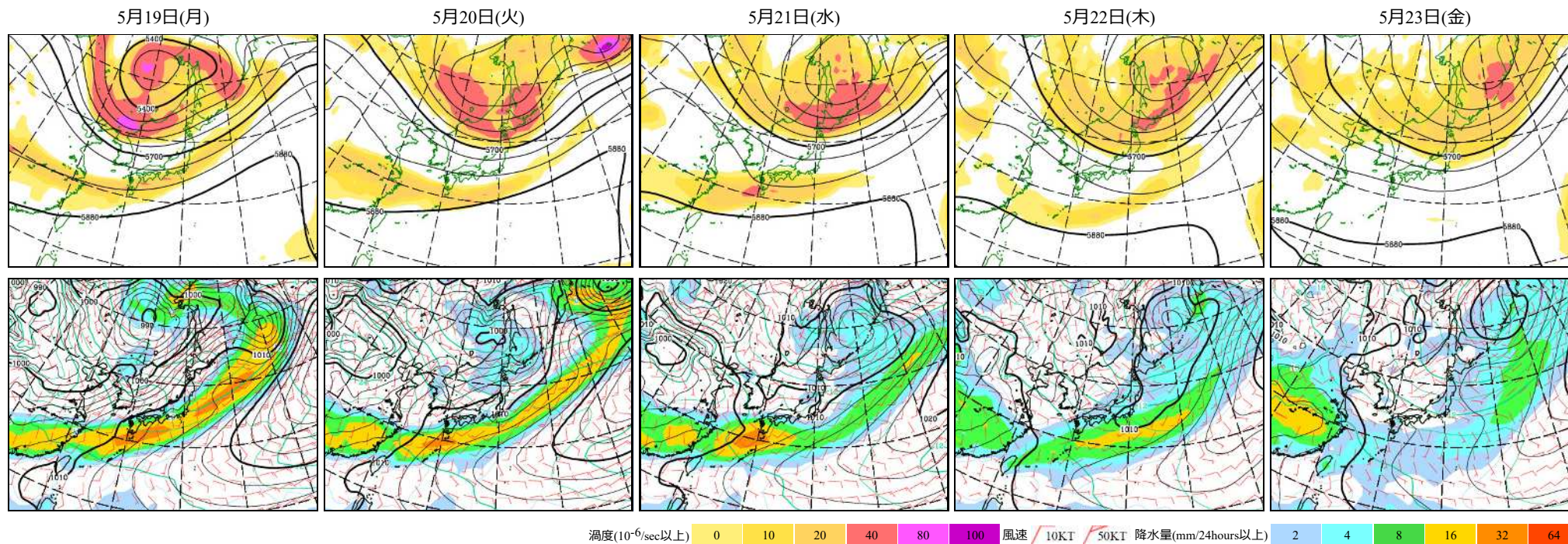
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

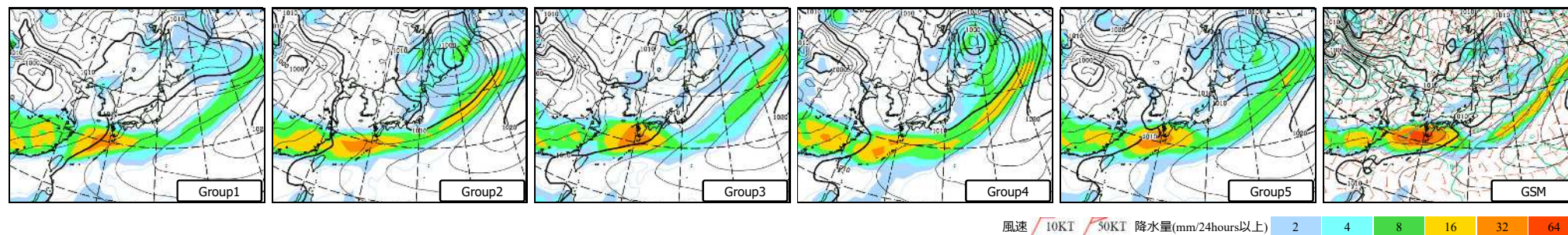


- 北日本は、19日は晴れる所があるが、雲が広がりやすく20日と21日は雨の降る所がある。
- 東日本から西日本にかけてと奄美地方は、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄地方は、19日はおおむね晴れるが、その後は雲が広がりやすく雨の降る所もある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆5月21日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、20日頃に北日本付近を通過する気圧の谷が明瞭となった。20日頃は日本の南の高気圧が強まる傾向が見られるが、22日から23日にかけては日本の南の高気圧が弱まる傾向となった。
- 22日は、前線が南下する傾向となったため、沖縄付近の降水確率ガイダンスの値が高くなり、西日本日本海側の降水確率ガイダンスの値が小さくなった。
- スプレッドは、期間の後半はやや大きくなり、各特定高度線のばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。